



制作

奄美自然体験活動推進協議会
環境省奄美野生生物保護センター

2009年3月初版発行
2011年9月第二版発行

写真協力

常田守
川口秀美

引用文献

- 時を超えて生きる アマミノクロウサギ (小学館 写真と文：浜田太)
- 奄美の希少生物ガイドⅠ (南方新社 著者：勝廣光)
- 日本の野生動物5 生きた化石 アマミノクロウサギ (汐文社 著者：桐野正人)
- 挿絵で見る「南島雑話」 (財団法人奄美文化財団 著者：鹿児島県立大島高等学校南島雑話クラブ)
- 奄美の野鳥図鑑 (文一総合出版 編：NPO 法人奄美野鳥の会)
- 琉球弧 野山の花 (南方新社 監修：大野照好 写真と文：片野田逸郎)
- 原色日本甲虫図鑑Ⅱ (保育社 編著：上野俊一・黒澤良彦・佐藤正孝)



わきゃあまみ⑧
アマミノクロウサギブック

もくじ

● はじめに	2
● どんな生きもの?	3
● どんな体をしているの?	4
● なぜ奄美にしかないの?	5
● 島のどこにいるの?	6
● どんなすみかに住んでいるの?	7
● 何を食べているの?	9
● どんなフンをするの?	10
● アマミノクロウサギのピンチ!	11
● 守るためにはどうすればいいの?	15
● おまけ 奄美群島の生きものたち	17

はじめに

奄美群島に住んでいる方々で、アマミノクロウサギという生きもの ^{かたがた} の名前を聞いたことがない人は一人もいないでしょう。でも、この動物が ^{せいそく} 生息している奄美大島や徳之島の人でも、実際に ^{かたがた} 生きたすがたを見たことがある人は案外少ないかも知れません。それでもその名前をみんなが知っているのは、アマミノクロウサギが奄美群島の自然環境 ^{かんきょう} を代表するシンボルだからだと思います。

アマミノクロウサギのくらしぶりについては、図かんやインターネットで調べてもあまりくわしいことがのっていません。何頭ぐらいいるのか、減っているのか増えているのか、どのように ^{はん} 繁殖 ^{しよく} するのか、正確にはわかっていないことの方が多いのです。そのようになぞだらけの動物であることも、アマミノクロウサギの魅力 ^{みりょく} の一つなのかも知れません。

奄美自然体験活動推進協議会 ^{すいしん} と環境省奄美野生生物保護センター ^{かんきょうしやう} では、「わきゃあまみ」第8弾として、「アマミノクロウサギブック」を制作しました。最新の調査結果などからアマミノクロウサギの現状をわかりやすく解説 ^{いっさつ} した一冊です。この「アマミノクロウサギブック」を各学校やご家庭で活用していただき、自然環境や野生生物への関心を高めていただければと思っています。



あましろです。
これから
アマミノクロウサギ
について、いっしょに
勉強しよう!

どんな生きもの？

「アマミノクロウサギ」という名前はよく聞きますが、意外と知らないことが多いのではないのでしょうか。アマミノクロウサギとは、どんな生きものなのでしょう。

かたがき

分類（生物学的な位置づけ）：

ウサギ目ウサギ科アマミノクロウサギ属

和名（日本語の名前）：

アマミノクロウサギ

英名（英語の名前）：

Amami rabbit [アマミ・ラビット]

学名（世界共通の名前）：

Pentalagus furnessi [ペンタラグス・フルネスイ]

かたがき：

○国の特別天然記念物

【学術上特に価値が高いことをしめています】

○国内希少野生動植物種

【数が少なく分布域が限られており、しかも人間活動のせいで数が減ってきているということをしめています】

○環境省レッドリスト 絶滅危惧IB類

【近い将来における絶滅の危険性が高い種であることをしめています】



歴史

1850（嘉永3）年	奄美の民ぞくをしょうかいした本「南島雑話」に登場する
1896（明治29）年	アメリカ人の研究者が標本を採集して持ち帰る
1900（明治33）年	初めて新種として記され、学問の世界で知られる
1921（大正10）年	動物として初めて国の天然記念物に指定される
1963（昭和38）年	特別天然記念物に指定される
2004（平成16）年	国内希少野生動植物種に指定される



「南島雑話」に描かれた
アマミノクロウサギ

奄美文庫 第5号「挿絵で見る『南島雑話』」
P.145ページ 挿絵を引用

どんな体をしているの？

アマミノクロウサギは「生きた化石」とよばれています。原始的なすがたを残し、独自の進化をとげてきたアマミノクロウサギは、本州や四国、九州などに住むノウサギや、ペットとして飼われているアナウサギなどとはことなつた、ユニークな体のつくりをしています。



毛

外側は茶色で内側は
灰色になっています。



おとな
全長：380～515mm

なき声

「ヒシー」と高い声でなきます。なき声でコミュニケーションをとることはアマミノクロウサギの持ちょうの一つです。

しっぽ

短いため、あまり目立ちません。

子ども



子どもは体や頭がまるく、おとなよりもふわふわした毛をしています。手足のつめはすでに大きく立派です。

つめ



がんじょうで、深い巣あなをほったり、急斜面を上り下りすることができます。



あまの
チェック①

足さきに注目！



よく見ると足さきの毛が白いアマミノクロウサギもいます。



なぜ奄美にしかいないの？

アマミノクロウサギは奄美群島だけに住んでいる「固有種」です。ではなぜアマミノクロウサギは世界中でここだけにしか住んでいないのでしょうか？ それは島の成り立ちが関係しています。

奄美群島の歴史

奄美群島は昔、大陸と陸続きになっていた時代があり、アマミノクロウサギの祖先はその時代にわたってきました。その後、大陸とつながったりはなれたりを何度かくり返し、100万年前には島になりました。アマミノクロウサギはこうして奄美群島に取り残され、独自の進化をとげてきたのです。

■島の成り立ち



アマミノクロウサギが生息しているのは、奄美群島の中でも奄美大島と徳之島だけです。これは、約100万年前に海の水位が上がり、アマミノクロウサギの先祖が高い山のある奄美大島と徳之島に移動したためと考えられています。一方、海にしずんだ土地はサンゴ礁が発達して、喜界島・沖永良部島・与論島になりました。

■約1万年前～現在

奄美群島が現在の姿になったのは約1万年前です。そして、今現在も生きものたちの進化は続いています。



沖永良部島(住吉のクラゴ)
島に点在するホー(川)は、島民の生活をうるおす貴重な水源となっていました。



奄美大島(湯湾岳頂上から)
高い山がちなっており、奄美群島の中でも動植物の種類が一番多い島です。



喜界島(百之台)
世界有数のスピードで隆起しています。



徳之島(上空から)
高い山と平野が広がり、多くの動植物がいます。



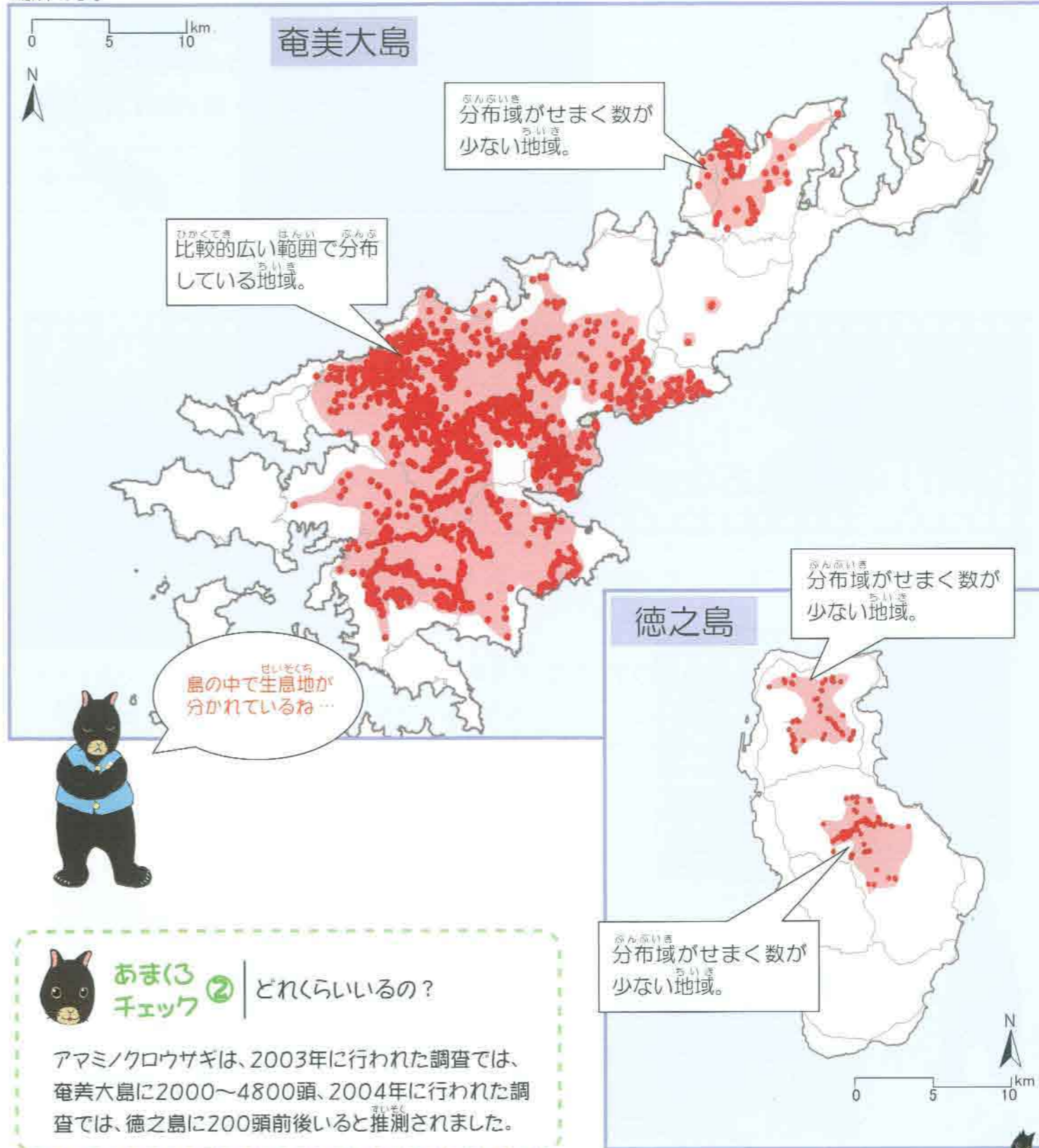
与論島(上空から)
平地が多く、美しいサンゴ礁に囲まれています。



島のどこにいるの？

奄美野生生物保護センターでは、アマミノクロウサギの目撃地点やフンの分布、死体が見つかった地点など、生息に関するさまざまな情報を集めています。これらの情報から、近年(2006年～2010年)の分布域を推測しました。

赤い点は情報のあった地点。ピンク色にぬりつぶされた場所はアマミノクロウサギが生息していると考えられる場所です。





どんなすみかに住んでいるの？

アマミノクロウサギのすみかは森の中の斜面などにほったあな、岩のすき間や木の根元のあななどの「巣あな」です。巣あなには休けい用と子育て用の2種類があります。アマミノクロウサギは主に夜活動し、巣あなを中心に2〜3ヘクタールの範囲で生活していると考えられます。



昼間は巣あなで休けいしていて、夜になると活動するんだよ！



巣あな 谷の斜面に作る
ことが多い

食べもの シダ類など
フンをする
開けた場所

休けい用の巣あな

昼間に休けいしている巣あなの中は、外と比べると5〜9℃の気温差があり、夏はすずしく、冬は暖かく過ごすことができるようです。

巣あなに入る様子



■ 巣あなの中はどうなっているの？

入口は、高さ、はばとも15cmくらいとせまいですが、おくは深く、約2mも続いています。おくには広い空間があり、アマミノクロウサギはそこで休けいしています。

特しゆなカメラでのぞいてみたよ。入口はせまいけど、おくは深くて広くなっているんだね！



世界初！！
巣あなの中の
アマミノクロウサギ
の写真！！

約2m

子育て用の巣あな

アマミノクロウサギはとてもユニークな子育てをします。休けい用の巣あな以外に子育て用の巣あなをもち、その中で子どもを育てるのです。ではアマミノクロウサギの子育ての様子を見てみましょう。

子育て用の巣あな



■ 入口をふさぐ



母親は巣あなからはなれるとき、入口を土でふさぎ、子どもは中で1匹で過ごします。入口をふさぐのは子どもをハブなどの敵から守るためと考えられます。

■ 2日に1回の親子のふれあい



母親がおちちをやりにくるのは2日に1回です。子どもは1ヶ月から1ヶ月半たつてようやく外に出ます。

子どもは巣あなの中で胃つんだよ！



巣あなの前に設置した自動さつえいカメラでとられた子育ての様子。



子どもを産む時期

飼育下では秋〜冬・春に子どもを産んだ例がありますが、野生下では1年を通していつ子どもを産むのか、わかっていませんでした。そこで奄美野生生物保護センターでは、子どもを産む時期を知るための調査をしています。

■ フンからわかる子どもが産まれる時期

子どもは1ヶ月から1ヶ月半たつと、巣あなから出て親といっしょに行動します。子どもの小さなフンがどの時期になると見られるかを調べることによって、子どもの産まれる時期を推定できます。その結果、

- 出産期は、ほぼ1年中である可能性が高い。
- 一番多く産まれる時期は11月から1月。

ということが、わかりました。

(子どものフンについては10ページ参照)

親といっしょに行動



おとなのフン



子どもフン

何を食べているの？

アマミノクロウサギの食べものはさまざまな種類の植物です。1年を通じて緑の生いしげる奄美の森の幸に、アマミノクロウサギは支えられて生きています。

食べもの

アマミノクロウサギが食べた植物の一部をしょうかいします。葉・くき・種・木の皮など、いろいろな部分を食べています。ここでしょうかいした以外の植物も食べています。



木の皮が、地面から60cmくらいの高さまで、かじられて

木の皮をかじり取った歯のあとがはっきり残っている。

徳之島では、畑のサトウキビを食べしてしまうことも。



サトウキビ



あまのチェック

③ どんな歯をしているの？



前歯の2本はノミ状になっていて、これで食べものをかみ切ります。

どんなフンをするの？

食べものを食べればフンをします。アマミノクロウサギのフンはどんな形で、どこで見られるのでしょうか。

フンのかたち

アマミノクロウサギのフンは「まる」が基本的な形ですが、食べるものや体調によっても変わるようです。



子どものフンの大きさ(実物大)



フンをする場所

見通しがよく、開けた林道や川原でよくフンをします。



あまのチェック

④ アマミノクロウサギのフンが支える生態系

フンはいろいろな生きものえいぶつげんの栄養源となっています。フンを利用している生きものを見てください。



① ヤマナメクジ ② オオシマケマイマイ ③ オオシマセンチコガネ ④ アマミセマダラマグソコガネ ⑤ ヒトヨタケの仲間 ⑥ キノコの仲間 ⑦ カビの仲間

※③はリュウキュウイノシシやアマミノクロウサギなどのフンを食べ、④はアマミノクロウサギのフンのみを食べる。そのため、④はアマミノクロウサギが生息している場所で見られない。

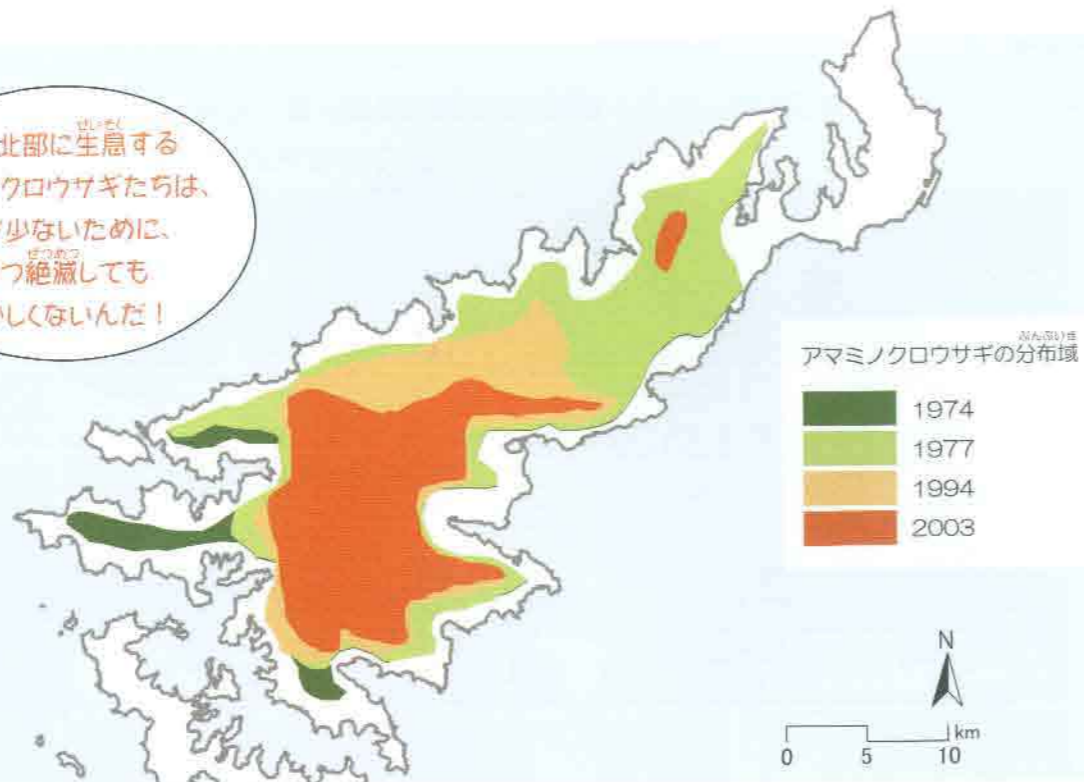


アマミノクロウサギのピンチ!

奄美大島のアマミノクロウサギは、かつては島内のほぼ全域で見ることができました。しかし分布域はだんだんせまくなり、1994年ごろからは北部と南部の2つに分かれてしまいました。アマミノクロウサギの数はどうして減ってしまったのでしょうか?



島の北部に生息するアマミノクロウサギたちは、数が少ないために、いつ絶滅してもおかしくないんだ!



森林伐採による被害

森林伐採は、アマミノクロウサギなど多くの生きものたちのすみかをうばいます。また、森林伐採によって流れ出した土はサンゴ礁にも被害をあたえます。人が生活をする上で木を切ることは必要かもしれませんが、山の木を根こそぎ切ってしまうのではなく、そこに生息する生きものたちのことも考えていく必要があるのではないでしょうか。



マンゲースによる被害

奄美大島のマンゲースは、ハブを退治するため、1979年に名瀬の赤崎公園でおよそ30頭が放されました。その後、マンゲースの数は増え、住む範囲も広がってきました。マンゲースがいるところでは、もともといた生きもの（在来生物）が少なくなったり、農作物が食べられたりといった被害が報告されるようになりました。

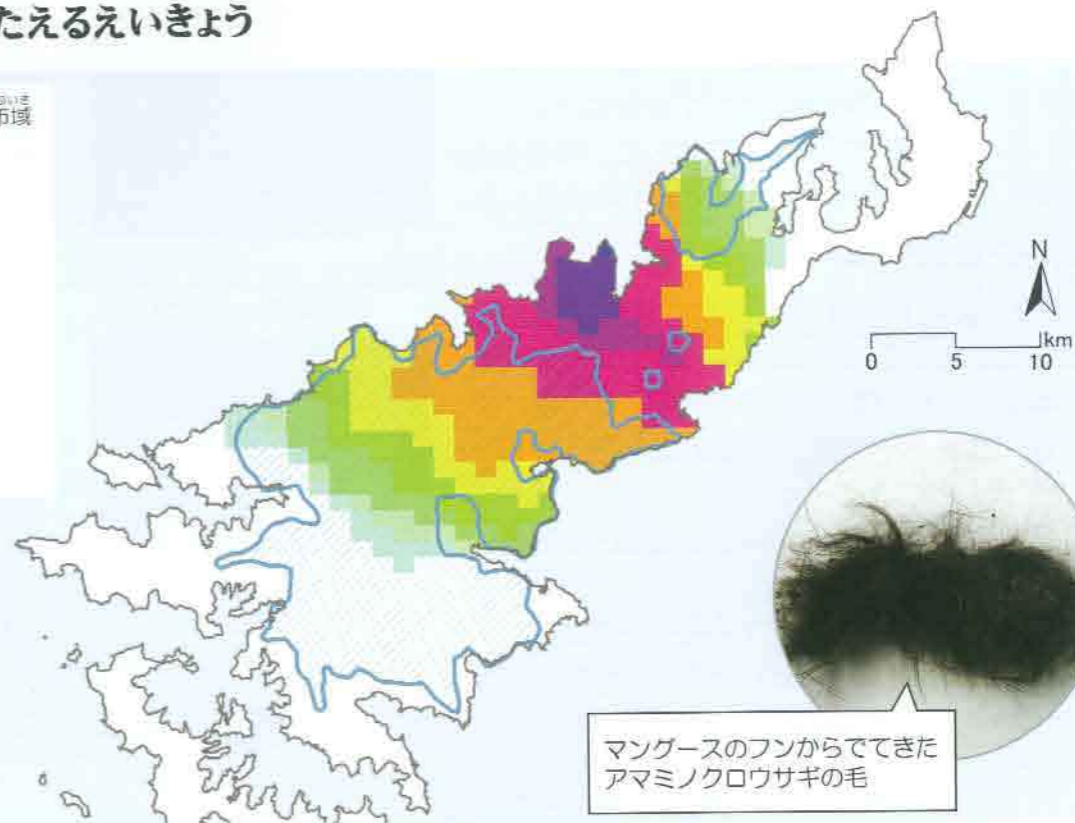


ファイリマンゲース

分類：食肉目マンゲース科
分布：インド・東南アジア
食性：雑食性

19世紀に、サトウキビ畑をあらすネズミなどを退治するために、世界各地に放されました。在来生物を食べ生態系に大きなえいきょうをあたえることが問題になり、世界中で駆除が行われています。これまでは、ジャワマンゲースとよばれていました。

マンゲースがあたえるえいきょう



図を見ると、マンゲースが早くから定着しているところでは、アマミノクロウサギがいなくなっていることがわかります。これは、マンゲースがアマミノクロウサギを食べているためだと考えられます。もちろんマンゲースはアマミノクロウサギだけでなく、鳥やカエルなど多くの在来生物も食べています。

ひがい ノイヌ・ノネコによる被害

狩猟用やペットとして飼われていた犬・ねこが、すてられたり迷子になったりして人の手をはなれ、野生化したものを「ノイヌ」「ノネコ」とよびます。このノイヌ・ノネコも、アマミノクロウサギの生存をおびやかす存在になっています。

07 Amakuro AWCC



ひがい 交通事故による被害

アマミノクロウサギが交通事故によって犠牲になることがあります。特に、交通量が多く、スピードも出しやすい国道や県道で事故が多く発生しています。2009年の交通事故による死傷は、わかっているだけで27件、うち14件は、国道と県道で起きています。

08 Amakuro AWCC



■ 犬によっておきた大量死

2007年11月12日に瀬戸内町から奄美市住用町にかけての林道で、11頭ものアマミノクロウサギの死体が発見されました。解ぼうの結果、犬によって殺されたことがわかりました。

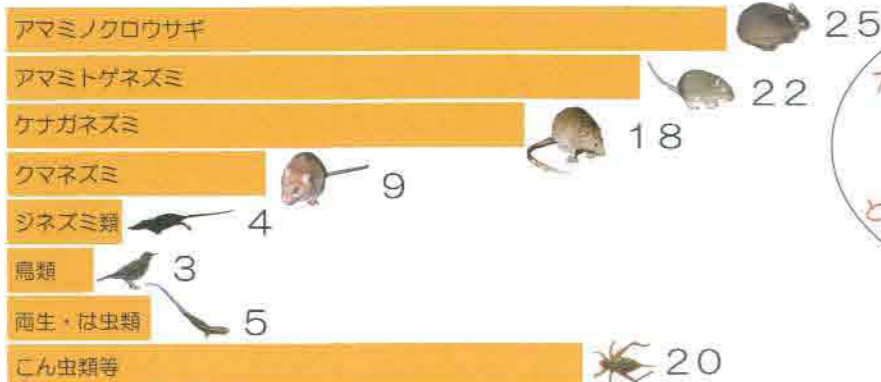


■ フンを調べる

林道に落ちているノイヌ・ノネコのフンを調べることによって、どんな生きものが食べられているかを見ました。その結果、希少種が多く食べられていることがわかりました。



87個のノイヌ・ノネコのフンを調べてみました。その結果、下のグラフでしめしたような動物の体の一部がフンの中から見つかりました。数字はその動物が確認されたフンの個数です。



アマミノクロウサギ以外の動物たちにとっても、ノイヌ・ノネコはとてもこわい存在なんだ！



死体からわかること

たくさんのアマミノクロウサギの死体が奄美野生生物保護センターに運びこまれます。新しい死体は解ぼうし、死んだ原因を調べています。ノイヌ・ノネコによる捕殺や交通事故が原因であることが多いようです。



林道等で、ノイヌやノネコによる捕殺が発生。



見通しが悪いので、交通事故が発生しやすい。



スピードが出しやすく、交通量が多い国道・県道では、交通事故が多発。



死体の発見地点 (2000年～2010年)

守るためにどうすればいいの？

さまざまな原因で数が減っているアマミノクロウサギ。奄美野生生物保護センターでは彼らを守るために保護の取り組みを行っています。

マンガースを減らす

■ 奄美マンガースバスターズ



マンガースを駆除するために、2005年にマンガースをつかまえる専門のチーム「奄美マンガースバスターズ」ができました。奄美大島からマンガースを完全に取のぞくことを目標に活動しています。

■ たんさく犬

駆除が進むにつれてマンガースの生息密度が低くなり、わなでつかまえることがむずかしくなってきました。そこで、より効率的にマンガースを駆除するために、たんさく犬を導入しています。たんさく犬はマンガースをつかまえるのではなく、マンガースのフン・こんせきを見つけ、それをハンドラーに教える役目を果たします。



※ハンドラーとは…犬をあやつる人

交通事故を防止する

■ 注意をよびかける

アマミノクロウサギが生息する地域ではゆっくりと運転するよう、ドライバーに注意をよびかける看板を設置したり、ちらしやステッカーを配ったりしています。



標識（鹿児島県）



移動式看板



ステッカー



あまのチェック

おもしろ注意標識

奄美群島内にはいろいろな野生生物の注意標識が設置されています。



徳之島ならではの注意看板！

犬・ねこを正しく飼ってもらう

■ すてない

犬・ねこをすてずに責任をもって飼うようによびかけています。すてられてしまった犬・ねこに対しては、保健所と協力してわなを設置し保護収容しています。

■ マイクロチップ

ペットの確実な身元証明になるマイクロチップのふきゅうを進めています。



首のうしろの皮下に入れる



マイクロチップがあれば、まいごになった時にも安心だよ！

※マイクロチップ・・・1.5ケタの数字が記録されていて、せん用のリーダーで読み取ることができる。電池は不要で、半永久的に使える。動物病院で入れてもらえる。

救護する

事故などで負傷したアマミノクロウサギが見つかった場合、動物病院などに運んで診察・治療してもらいます。救護のため一度収容されたアマミノクロウサギが野生復帰していくのは、簡単なことではありません。



▲上の写真は2枚とも、交通事故にあったアマミノクロウサギです。

知ってもらう

奄美の自然について知ってもらうために、小中学生にお話しをしたり、シンポジウムや企画展を開いたりしています。



わたしたちにできること

なぜにつつまれていたアマミノクロウサギの暮らしぶりも、多くの人が調べた結果、少しずつわかってきました。同時に、アマミノクロウサギの生存をおびやかす問題に対しても、解決のための取り組みが始まっています。

アマミノクロウサギを守るために、わたしたちにできることはなんですか。まず、この冊子などを利用してアマミノクロウサギについてよく勉強してみましょう。それから、アマミノクロウサギがなぜ減っているのか、どうすれば減るのをとめることができるのか考えて、話し合ってみましょう。わたしたちにできることがきっと見つかるはずですよ。





おまけ 奄美群島の生きものたち

奄美群島には、アマミノクロウサギ以外にも多くの野生生物が^{せいそく}生息しています。「固有種」が多く見られるのも奄美群島の特ちょうです。独自の進化をとげてきた、美しくユニークな生きものたちをしょうかいします。

鳥類



◀ オオトラツグミ
・国の天然記念物・国内希少野生動物種・絶滅危惧II類
3~4月の繁殖期、夜明け前に「キョローン」とすんだ声でさえずる。個体数が少なく、そのすがたを見ることはまれである。

▶ リュウキュウコノハスク
夜行性で、春から夏にかけての夜によくなく。大木の樹洞などを利用して繁殖する。



◀ ルリカケス
・国の天然記念物・鹿児島県の県鳥
るり色と茶色の美しい配色をもつ。さまざまな鳴き声を出す。森林に生息するが、農耕地で採食することもある。



オス



メス



▲ アマミヤマシギ
・国内希少野生動物種・絶滅危惧II類
地上で活動することが多い。長くちばしを地面にさしこんで、中にあるミミズなどを食べる。



◀ オーストンオオアカゲラ
・国の天然記念物・国内希少野生動物種・絶滅危惧II類
照葉樹林に生息しており、木の幹をつついて中にいる虫を食べる。繁殖期には、木を連続してつつき大きな音を出す。

▲ アカヒゲ
・国の天然記念物・絶滅危惧II類
コマドリの間。オスは顔からのどと付近まで黒色。春に特ちょう的な声でさえずる。



こん虫類



▲ アマミサナエ
・準絶滅危惧種
主に中・南部の山間の清流に^{せいそく}生息する。

◀ アマミヤマクワガタ
標高200m以上の山地に^{せいそく}生息している。人とられ数が激減している。

両生・は虫類

▼ イボイモリ
・絶滅危惧II類
アマミノクロウサギと同じように古いすがたを残し、生きた化石とよばれる。ろっ骨がはりだしているのが特ちょう的。



▲ アマミハナサキガエル
・絶滅危惧II類
スマートな体形をしており、後ろ足が長く大きくジャンプする。体色は緑、茶色などで、コゲや落ち葉の上では見つけにくい。



▲ オットンガエル
・絶滅危惧II類
奄美大島だけに住む。「オットン」とは大きいという意味で、体長が約14cmにもなる。

▼ オオシマウツギ
林のはしに生える。星型の花が集まってさく。花期は3~4月。



◀ アマミイシカワガエル
・絶滅危惧II類
奄美大島に住む。緑地に金色のはん点があり、日本で一番美しいカエルと言われている。

▼ ケナガネズミ
・国の天然記念物・絶滅危惧II類
日本で最も大きいネズミ。しっぽが長く、先が白い。木の上で生活している。



ほにゅう類



▲ オリイコキクガシラコウモリ
・絶滅危惧II類
窟間はどうかつの中で休んでおり、日がしずむと外にでてエサをさがす。一晩の間に自分の体重の約3分の1にもなる量のこん虫を食べる。

▲ アマミトゲネズミ
・国の天然記念物・絶滅危惧II類
背中にトゲのようなかたい毛があるところが名前の由来。ハブのこうげきをジャンプでかわす。徳之島には別種「トクノシマトゲネズミ」が生息している。



◀ アマミエビネ
・絶滅危惧IA類
林内に生え、高さは40cmほどになる。人とられ数が激減している。花期は3~4月。

▼ アマミセイシカ
・絶滅危惧IA類
さわぞいに生える。人とられ数が^{せいそく}激減している。花期は3~4月。



▲ アマミテンナンショウ
・絶滅危惧II類
林内に生える。葉が左右対しょうで、つつ状の苞(ほう)の中に花がある。花期は1~3月。